

# 高温に伴う農作物等の管理対策

令和2年6月5日  
新潟県農林水産部

新潟地方気象台が6月4日14時30分に発表した「高温に関する早期天候情報（北陸地方）」によると、6月10日頃から、かなりの高温（5日平均地域平年差+2.0℃以上）となる可能性があることから、下記の管理対策を参考として今後の気象変動に十分留意し、農産物等の管理対策の徹底をお願いします。

また、熱中症を防止するため、農作業は気温の高い時間帯を避けるとともに、水分補給をこまめに行うなど十分注意してください。

## 1 水稻

- ①今後さらに茎の発生が旺盛になり、過剰生育が懸念されるので、田植え後25日を過ぎたら生育を確認し、遅れずに中干しを開始するとともに、溝切りも確実に実施する。
- ②特に、連休植えのほ場や生育が過剰になりやすいほ場では、ただちに中干しを開始する。
- ③中干しの程度は、田面に小さなヒビが入り、軽く足跡がつく程度までとする。中干し期間中であっても、高温が続き、田面に大きなヒビが入ることが想定される場合には、走り水かん水を行う。
- ④気温の高い状況が続いていることから、地温の上昇にともない、田のワキの発生が多くなることが予想されるため、ただちに中干しに入れられないほ場では夜間落水を行い、根腐れや生育停滞を防止する。

## 2 麦類

- ①成熟期頃の穀粒水分は、高温多照の日には1日に10%以上も減少することがある。このため、当初の見込みより収穫期が早まることが予想されるので、麦の状態をこまめに観察して穀粒水分の変化を把握し、刈り遅れないように収穫を行う。

## 3 大豆

- ①は種時に乾燥土壌で晴天が続く場合は、は種深をやや深めとする。また、畝立ては種では、土壌の乾燥による出芽不良を避けるため、畝の高さを10cm程度とし、高くなりすぎないように注意する。
- ②は種後の除草剤散布は、土壌が湿っているは種直後に、できるだけ早く行う。

## 4 園芸作物

### (1) 野菜・花き

- ①露地野菜（えだまめ等）は、畦間かん水を行う。ただし、翌朝には畦間に停滞水が無いように注意する。
- ②砂丘地野菜（すいか等）は、適宜スプリンクラーかん水を実施し、草勢の低下防

止と果実肥大の促進を図る。

- ③施設栽培では、適切な遮光と換気により、高温による品質低下を防ぐとともにチューブかん水や通路かん水を実施する。
- ④育苗中の苗は、過乾燥にならないよう、かん水を徹底する。
- ⑤定植直後の苗や球根類は、活着の促進を図るため、十分なかん水を行うとともに乾燥を防止するために敷わらやマルチを行う。

## (2) 果 樹

- ①園地が乾いている場合は、スプリンクラーまたはホースかん水を行う。
- ②土壌水分の急激な変化は、生理障害（なしの石ナシ・尻腐れなど）の発生を助長するので、定期的なかん水に努める。
- ③草生園では、草刈りを実施し樹冠下に敷草する。清耕園は浅く耕うんして、土壌毛細管を断つことにより土壌水分保持に努める。
- ④乾燥を防止するために敷わらやマルチを行う。
- ⑤ハウス栽培では、上部の換気にも努め、高温にならないように注意する。

## 5 畜産

### (1) 家畜管理

- ①急激な気温上昇に伴う家畜の生産性の低下、熱射病等を防止するため、換気・送風・寒冷紗・屋根への塗装等の暑熱対策を早めに準備する。特に、換気扇、送風機は支障なく稼働するよう、ほこりを落とし、ベルトの張り、注油などの点検を行い、電気系統の具合もチェックする。（掃除をすることによって、風量も含めて効率がアップする。）
- ②開放畜舎では、開口部はできるだけ開放し、空気の流れを妨げるものを除去して、通風をよくする。
- ③搾乳牛は畜舎内の温度が20℃を超えたら暑熱対策を実施し、家畜の体感温度の低下に努める。
- ④家畜の観察を励行するとともに、餌槽や飲水設備をこまめに清掃・点検し、新鮮な飼料・飲水が確保されるように努める。
- ⑤良質な飼料給与に努め、食欲低下を防止する。
- ⑥高温時のミネラル、ビタミン及び重曹の給与は疲労防止に効果があるので、早めに家畜への慣らし給与を始める。

### (2) 飼料作物

- ①牧草（1番草）の生育ステージは進むものの、高温下では消耗により乾物収量や栄養分が低下しやすくなるため、天候を見ながら刈り遅れないように収穫を行う。
- ②牧草サイレージの発酵を良好とするため、梱包直前の水分を50～65%とする。

## 6 き の こ

- ①ハウス内の高温による生育障害を防ぐため、換気による適切な温度・湿度管理に努める。
- ②高温下では、きのこの品質低下が著しいので、適期収穫に努める。
- ③収穫したきのこは、速やかに保冷库等で保管する。
- ④露地栽培については、通風確保や散水などによる温度・湿度管理に努める。
- ⑤極端な温度変化による影響の早期発見に努め、適切に対応するよう留意する。